

ED-005

# 環境経営レポート

2018年度

(2017年12月~2018年11月)



佐竹特殊鋼株式会社

2019年3月4日発行

## 1. 組織の概要

### (1) 事業所の名称及び代表者

佐竹特殊鋼株式会社  
代表取締役 佐竹昌史

### (2) 所在地

本社  
東京都立川市一番町 4-65-32  
電話 042-531-8656

営業本部・加工センター  
東京都武蔵村山市伊奈平 1-28-4  
電話 042-531-8681 FAX 042-531-8684

### (3) 事業内容

特殊鋼の素材販売・加工販売  
非鉄金属、新素材の素材販売・加工販売

### (4) 事業規模

創立 1973年3月30日  
法人設立 1974年11月30日  
資本金 1,200万円  
年商 600百万円  
従業員 16人 (パート・非常勤も含む)

## 2. 対象範囲

### (1) 認証・登録範囲

特殊鋼及び非鉄金属、新素材の素材販売・加工販売

### (2) レポート対象期間

2017年12月～2018年11月

### (3) 活動レポート発行日

2018年3月4日発行

### 3. 環境経営方針

#### 【基本理念】

佐竹特殊鋼株式会社は、素材販売、機械加工を行う会社として環境に配慮した会社をめざし日々努力していきます。

地球環境保全が、最重要課題の一つであると共に、かけがえの無い地球に住む一員であることを認識し、地球環境を考えた事業活動を全員参加で展開することを基本理念とします。

#### 【環境経営方針】

##### 1. SDGsの目標設定

ゴール5 ジェンダー平等

ゴール7 エネルギー

ゴール8 雇用

ゴール12 持続可能な生産・消費

ゴール13 気候変動



- 環境経営目標を設定し、定期的にその効果を評価し、必要に応じて見直しを行うと共に継続的改善に取り組みます。
- 環境関連の法規制を順守します。
- クレーム削減を徹底します。
- 3Sパトロールの実施と振り返り
- 新人教育マニュアルの作成及び実施
- 採用戦略の立案

この品質環境経営方針は、社内外全ての方に周知をする為に、開示します。

制定 2015年2月2日

改定 2019年1月11日

佐竹特殊鋼株式会社

代表取締役

佐竹 昌史

## 4. 環境経営目標

No.	項目	基準年度実績 (前半期)	2021年度中期目標	2018年度目標	
1	売上高	2014年度 (50) 100 %	2014年度比 145 %以上	2014年度比 135 %以上	
2	顧客クレーム削減による環境負荷の低減	2017年度 クレーム発生 9 件		クレーム発生 7件以下	
3	社内検査不具合発生削減による環境負荷の低減	2017年度 不具合発生 物流センター 3 件 加工センター 4 件 外注 0 件		不具合発生 物流センター 4件以下 加工センター 7件以下 外注 0件	
4	二酸化炭素排出量の削減	排出量	2014年度 (39.3 t) 79.6 t		
		売上高比排出量	2014年度 (78.6t/100) 79.6t/100	2014年度比 85 % 67.7 t/100	2014年度比 95 % 75.6 t/100
5	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	2015年度 738 kg	2015年度比 135 % 996 kg	2015年度比 120 % 886 kg
		一般廃棄物	2015年度 1,140 kg	2015年度比 185 % 2,109 kg	2015年度比 170 % 1,938 kg
6	紙使用量の削減	使用量	2014年度 (51,295枚) 106,161 枚		
		売上高比使用量	2014年度 (102,590枚) 106,161 枚/100	2014年度比 95 % 100,853 枚/100	2014年度比 80 % 84,929 枚/100
7	製品の環境性能の向上 (RoHS指令への対応)	顧客要求に100%対応	顧客要求に 100%対応	顧客要求に 100%対応	
8	+O <sub>2</sub> マングローブ 植林プロジェクト			フィリピン市にマングローブ 苗木を植林する	

・電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、2014年東京電力の調整後排出係数0.496kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用。

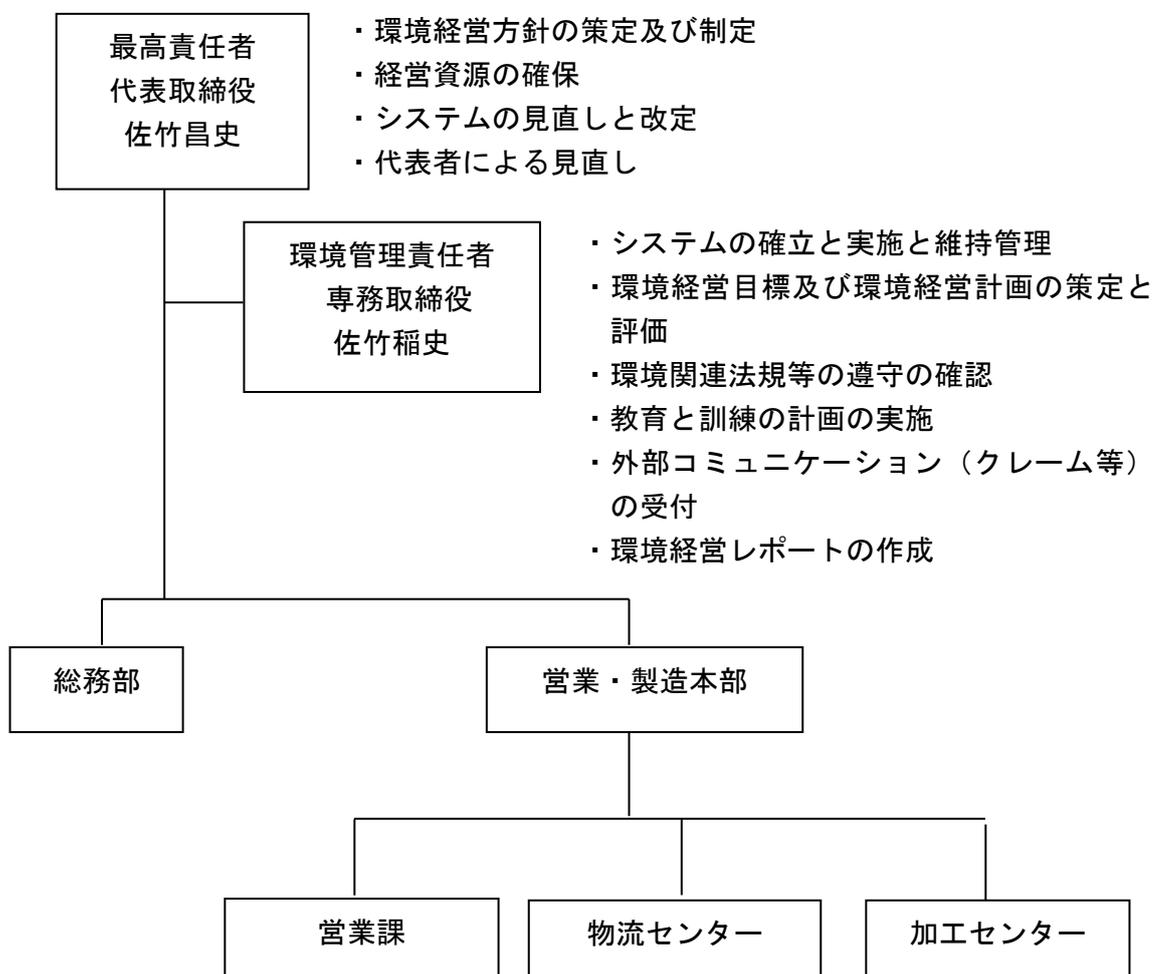
## 5. 環境経営計画

No.	項目	基準年度実績 (前半期)	2018年度目標	2018年度 活動計画	
1	売上高	2014年度 (50) 100 %	2014年度比 135 %以上	従来の顧客の担当変更し、新規開拓を積極的に行い、売上UPにつなげる。	
2	顧客クレーム削減による環境負荷の低減	2017年度 クレーム発生 9 件	クレーム発生 7件以下	ユーザークレームからの是正処置票の深堀の徹底し、即時対応する。	
3	社内検査不具合発生削減による環境負荷の低減	2017年度 不具合発生 物流センター 3 件 加工センター 4 件 外注 0 件	不具合発生 物流センター 4件以下 加工センター 7件以下 外注 0件	是正処置票での対応策の徹底、サプライヤーへの教育。	
4	二酸化炭素排出量の削減	排出量	2014年度 (39.3 t) 79.6 t	2014年度比 95 % 75.6 t/100	売り上げ原単位12%減
		売上高比排出量	2014年度 (78.6t/100) 79.6t/100		
5	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	2015年度 738 kg	2015年度比 120 % 886 kg	実際の排出量の見直しを行い、現状把握は完了。段ボール等のリユースの推進。 リサイクル分別の徹底
		一般廃棄物	2015年度 1,140 kg	2015年度比 170 % 1,938 kg	
6	紙使用量の削減	使用量	2014年度 (51,295枚) 106,161 枚	2014年度比 80 % 84,929 枚/100	今期 加工センター新設に伴うセンターとのFAXは0になる。
		売上高比使用量	2014年度 (102,590枚) 106,161 枚/100		
7	製品の環境性能の向上 (RoHS指令への対応)	顧客要求に100%対応	顧客要求に 100%対応	・顧客からの要求があった場合、対応する。	
8	+O <sub>2</sub> マングローブ植林プロジェクト		フィリピン市にマングローブ苗木を植林する		

- ・電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、2014年東京電力の調整後排出係数0.496kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用。

## 6. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

### Eco Action 組織図



#### ・ 売上高について

2014 年度対比 135%以上の目標を掲げ、対応してみたが、現状の顧客の売上 UP は見込めたが、新規開拓には、十分な成果が出せず、129.3%の結果となった。

#### ・ 顧客クレーム削減による環境負荷の低減について

今回より設定した目標で 2017 年度実績 9 件から 7 件の目標で進めたが、直送したプレートの不具合が多発し、その都度是正処置表を提出させたが、止める事が出来ず 19 件となった。

#### ・ 社内検査不具合削減による環境負荷の低減について

今回より、設定した目標で、2017 年度実績 7 件から 11 件とし進めた結果 7 件と目標はクリアしたが、ヒューマンエラーが多かった。

#### ・ 紙使用量について

2014 年度売り上げ原単位 80% 84,929 枚で目標設定し、ダイレクト FAX、売上増に

より 81.2%で目標には届かなかったが、ほぼ達成となった。

- ・ 産業廃棄物排出量について

2015 年度対比 120% 886Kg を目標にしましたが、実績が 600Kg となり、32.3%減となりました。要因はカッティングオイル、切削油のみの為。

- ・ 二酸化炭素排出量について

売り上げ原単位で 2.4%減になった。

## 7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

### (1) 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

No.	項目	2018年度目標		評価			
1	売上高	2014年度比 135 %以上	123.5 %	従来顧客の大幅な売り上げ増加が結果に反映した	129.3 %	前半同様、従来顧客の大幅な売り上げ増加が結果に反映した	
2	顧客クレーム削減による環境負荷の低減	クレーム発生 7件以下	9 件	直送した6Fプレート品の不具合が多発。是正処置票にて対応	19 件	直送した6Fプレートの不具合の是正処置票を提出させたが、徹底されず、件数が増加した。	
3	社内検査不具合発生削減による環境負荷の低減	不具合発生 物流センター 4件以下 加工センター 7件以下 外注 0件	2 件 0 件 0 件	是正処置票にて、対策済み	3 件 3 件 1 件	物流センターについては、ヒューマンエラーが目立った。是正処置で決めたルールを徹底する。加工センターについては、経験不足による間違いが多い。まずは、是正処置で決めたルールを徹底する。	
4	二酸化炭素排出量の削減	排出量		12.7%増 売り上げ増による排出量UP	88.35 t	売り上げ増による排出量UP	
		売上高比排出量	2014年度比 95 % 75.6 t/100	71.7 t/100 91.2 %		68.3 t/100 85.8 %	14.2%減 売上単価がUPし、軽油・灯油は減少
5	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	2015年度比 120 % 886 kg	600 kg	切削油及びカuttingオイルのみを廃棄	600 kg	前半の切削油及びカuttingオイル廃棄のみ
		一般廃棄物	2015年度比 170 % 1,938 kg	kg	夏の暑さによるベットのトル増、また、梱包材が売り上げ増で、廃棄量が増えた	kg	売上増に伴い、梱包材が増えた。17年6月より、1袋一律15kgカットとなり、数値的に増加
6	紙使用量の削減	使用量		55,093 枚	売り上げ増による枚数が増えたが、売り上げ原単位では減少	111,435 枚	ダイレクトFAX他、印刷削減に努めた
		売上高比使用量	2014年度比 80 % 84,929 枚/100	89,219 枚/100 87.0 %		86,183 枚/100 81.2 %	
7	製品の環境性能の向上 (RoHS指令への対応)	顧客要求に 100%対応		特になし		顧客要求に100%対応	
8	+O <sub>2</sub> マングローブ植林プロジェクト	フィリピン市にマングローブ苗木を植林する		マングローブ366本植林達成		マングローブ445本植林達成	

・電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、2014年東京電力の調整後排出係数0.496kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用。

## (2) 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

- ・ 来期については、加工センター新設に伴い深耕営業、新規営業、高付加価値の加工品受注拡大に努め、目標達成する。
- ・ 新たな、プレートメーカーをサプライヤーに加え、現在対応中。  
新人のルールの徹底、スキルアップを物流センター、加工センターとも、教育マニュアルで実施し、毎月の責任者会議でフォロー指定していく。
- ・ 今期は、加工センターが7月より移設するので、FAXの枚数が0となり、大幅な削減が予想される。
- ・ 来期は工場移設の為、切削油を全部工作機械より出す為、大幅に増える見込み。

No.	項目	2021年度中期目標	2019年度目標	2019年度 活動計画
1	売上高	2014年度比 145 %以上	2014年度比 130 %以上	新規工場設立に伴い、深耕営業の推進及び新規開拓
2	顧客クレーム削減による環境負荷の低減		クレーム発生 7件以下	ユーザークレームからの是正処置票の深堀の徹底し、即時対応する。新規のサプライヤーの検討
3	社内検査不具合発生削減による環境負荷の低減		不具合発生 物流センター 4件以下 加工センター 6件以下 外注 0件	是正処置票での対応策の徹底、サプライヤーへの教育。
4	二酸化炭素排出量の削減			
	排出量			
	売上高比排出量	2014年度比 85 % 67.7 t/100	2014年度比 90 % 70.7 t/100	売り上げ原単位15%減
5	廃棄物排出量の削減			
	産業廃棄物	2017年度比 121.4 % 996 kg	2017年度比 134.1 % 1100 kg	新工場併設の効果を出す。木製パレットの共同使用
	一般廃棄物	2017年度比 110 % 2,109 kg	2017年度比 135.8 % 2,600 kg	リサイクル分別の徹底及び購入の過剰梱包に対して、適性梱包の依頼の実施
6	紙使用量の削減			
	使用量			
	売上高比使用量	2014年度比 95 % 100,853 枚/100	2014年度比 80 % 84,929 枚/100	2019/7月より加工センター新設の為 FAX使用が0枚になる
7	製品の環境性能の向上 (RoHS指令への対応)	顧客要求に 100%対応	顧客要求に 100%対応	・顧客からの要求があった場合、対応する。
8	+O <sub>2</sub> マングローブ 植林プロジェクト		フィリピン市にマングローブ 苗木を植林する	

- ・ 電力の CO2 排出係数は、2014 年東京電力の調整後排出係数 0.496kg-CO2/kWh を使用。

## 8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、

### 訴訟などの有無

- 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例
- 騒音規制法
- 振動規制法
- フロン排出抑制法
- 廃棄物処理法
- 労働安全衛生法
- 消防法

上記法規等について、2019年1月15日に遵守状況の評価を実施し、特に問題のないことを確認しました。また、外部関係者からの苦情及び訴訟等は過去5年間発生していません。

## 9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2018年度の目標達成状況については、1月に確認した。2019年度の電力、ガソリン、軽油、紙の使用量については、売り上げ増加を見越して、数値目標の設定をする事。

加工センターに人員の増員を決定、加工センターの電力使用量のUPを考え、また、来期には加工センター移設に伴い、FAX等は0枚となり、環境の変化を予想しながら、数値目標を立てる事。

新たな経営環境方針を作成したので、方針に沿った内容で、具体案を出し目標達成に努める事

(2019. 1月31日)

- ・次期環境経営レポートは、2020年3月発行予定。